

【用語】公儀—幕府 運上—商人や運送業者などの営業に課した雑税  
巨細—委細 封印—封じ目に印をおすこと 注進—事件などを急いで  
報告すること 山師—鉱山の採掘などを行う人 別而—とりわけ、と  
くに 不念—気が付かない、行き届かないこと 越度—罪、あやまち  
銅問屋—銅荷物輸送を行う継ぎ場の役人 扶持—俸禄 御蔵敷—銅蔵  
の敷地

【解説】下野国の足尾銅山(栃木県足尾町)は、天正または慶長年間頃の  
開発といわれるが、採掘が本格化するのは慶安元年(一六四八)、幕府代  
官の諸星庄兵衛が銅山奉行に就任し、幕府の「御台所御用山」に指定  
されてからであった。この御用銅の江戸への輸送路として整備された  
のが銅山街道(あかがね街道)であり、荷物の継立て場や問屋もこの頃定  
められた。

この文書は、花輪村(東村)の銅問屋高草木家が書写した銅荷物継立  
てに関する古書物の一部である。前半部は、銅の不正な取引や輸送  
が横行したことから寛文十二年(一六七二)二月、幕府の代官岡登治郎  
兵衛が沢入村(東村)から平塚河岸(境町)までの銅問屋四人に対し、御  
用銅の抜け荷取締りの徹底を申し渡したものである。後半部は、沢入  
村から亀岡村(尾島町)までの銅問屋五人が所有する銅蔵の敷地面積や  
問屋手当などの書上である。なお、銅山街道は笠懸野新田の開発など  
もあって、当初の道筋や継立て場所、銅問屋が一部変更になったこと  
もある。この高草木家文書は東村指定の重要文化財である。